

「自然環境科学研究」 投稿の手引き

昭和 61 年 12 月実施
平成 14 年 11 月改訂
平成 20 年 1 月改訂
平成 29 年 1 月改訂

1 はじめに

この投稿の手引きは投稿規定 5 によるもので、論文（資料を含む、以下同じ）投稿に当たり原稿執筆の指針として設けられている。よく読んで諸注意を守り、体裁の整った、読みやすく、理解しやすい論文を作成すること。

2 投稿論文

2・1 投稿論文の形式

2・1・1 投稿論文の提出 投稿論文はデジタル・ファイル 1 部を提出すること。ただし、必要に応じてプリントした原稿の送付を依頼する場合がある。著者は投稿原稿（審査などで変更が加えられた場合は、その変更部分も含む）の完全な控えを手元に保存すること。

2・1・2 投稿論文の構成 投稿論文は次のものから成る。

①投稿カードファイル

②本文ファイル

表紙（題、著者名および連絡先の和文と英文）

論文の要約

Keywords

本文（図の説明を含む）

③図と表のファイル

2・1・3 原稿の書式

①文書ファイルはすべて A 4 版で横書きとし、和文の場合は明朝系のフォントを用い 24 字×23 行、英文の場合はなるべく Century を用い、12 ポイント文字で 25 行の設定とする。

②図と表の書式は定めないが、見やすさを考慮して作成すること。

2・1・4 投稿カード 投稿カードには当編集委員会が定める所定の事項を記入する。

2・1・5 題名 題名は論文の内容を的確に示したものでなければならない。

一連の研究である場合は、その大題名および前報の著者名、所載文献を脚注に書く。大題名を途中で変更することはできない。

2・1・6 要約 報文には、本文の始めに 150 語以内の英文の要約をつける。

また、本文が英文の場合には、英文要約の他に 1,000 字程度の和文要約もつけることとする。

2・1・7 Keywords Keywords は 6 語以内とし、英文と和文で記載する。

Keywords には論文の内容が明確に分かるような語を本文から選び出すこと。

2・1・8 本文 報文の本文は、2・1・3 に定める書式で、なるべく 30 枚以内（図と表を含む）にまとめること。

2・1・9 その他 学会、講演会などで発表した論文は、本文の末尾にその年月日、会名を記載する。

2・2 投稿論文原稿の書き方

2・2・1 文章 和文は平仮名書き、文章口語体（「である」式）とし、常用漢字と現代仮名づかいとを用い、簡潔に書くこと。

2・2・2 ローマ字およびアラビア数字 本文中（見出しを除く）のローマ字綴りとアラビア数字は活字体（半角）ではっきり書くこと。

2・2・3 句読点 句読点、括弧は 1 字に数え、原稿の書き始めおよび行を改めたときの書き始めは 1 字あける。なお、句点、読点はそれぞれ、（.）および（,）とする。

2・2・4 専門用語 専門用語は特別な理由がない限り、文部省の学術用語集に従うこと。

2・2・5 略語 略語は慣用に従う。略語を用いるときは、論文の要約および本文の最初に出てくる箇所で、正式の名称に略語を括弧内に付記する。

2・2・6 外国の人名、会社名 外国の人名、会社名などはローマ字綴りで書くことを原則とする。ただし、周知の術語となっている人名は片仮名書きとする。

例：[ピタゴラスの定理、ニュートン力学、メンデルの法則など]

2・2・7 見出し 本文中の大見出し、中見出し、小見出しは Point system とし、1 文字あけて、1, 2, 3, ……、1・1, 1・2, ……、1・1・1, 1・1・2, ……とする。大見出しの前後、中見出しの前は 1 行あける。また、大見出しおよび中見出しの後の本文の始めは改行して 1 文字あけて、小見出しの後の本文の始めは改行せず 2 文字あけて書き始める。

2・2・8 図と表 図と表は、「4 図と表」を参照して作成すること。

2・2・9 学名 本文中の学名は、イタリック体で記載する。

2・2・10 物理量 物理量の記号およびその使用上の規約は、なるべく「学術用語集」に従うこと。

2・2・11 単位 単位は、なるべく SI 単位を用いる。

2・2・12 脚注 原則として本文中では脚注を用いず括弧を使って書く。やむを得ない場合は、本文中のその項目の右肩に*¹*²のように付け、その行の終わったと

ここで、次の行に線を引き、その次の行から脚注を書く。脚注を書き終ったならば、再び次の行から本文を続ける。

2・2・13 謝辞 謝辞が必要であれば、引用文献の後に1行あけて記載する。

3 引用文献

3・1 本文中での引用の仕方

3・1・1 番号のつけ方 引用文献は本文中その項目の右肩に¹⁾のように通しで番号をつけ、「**3・2 引用文献の書き方**」に従って最後にまとめて書く。

複数の文献を1箇所引用する場合は、^{1, 2)}あるいは、¹⁻³⁾のように番号をつける。

3・1・2 人名 本文中に引用する人名は敬称を略し、姓のみとする。3名以上共著の文献の場合は、筆頭者の姓のみとし、その他を省略して“……ら”（外国語文献の場合は“……et al.”）と書く。

3・1・3 発行年 本文中には特別な必要がない限り文献の発行年は記入しない。

- (例) ○ 山田⁵⁾が述べているように…
× 山田(1987)⁵⁾が述べているように…
○ 山田の報告のうち1987年のもの⁵⁾では…

3・2 引用文献の書き方

本文中で引用した文献は、本文が終わったあと、1行あけて引用文献と書き、さらに1行あけて文献を書く。文献の内容は次の形式で書くこと。同一の著者、雑誌等が続く場合も、すべて省略せずに書く。

3・2・1 人名の表記 人名は姓、名の順に表記する。アルファベット等で表記する場合は、姓にコンマを付した後に頭文字で名を表記する。

人名に付されている前置詞(von, van, de, da, del 等)は名に続け、姓の前にはつけない。

- (例) L. da Vinci → Vinci, L. da
H. de Vries → Vries, H. de
K.A. von Basedow → Basedow, K.A. von
J.D. van der Waals → Waals, J.D. van der

3・2・2 複数名の列記 複数の著者、編者がある場合は、原則として全員の氏名を列記する。ただし、代表者がある場合は、代表者氏名のみ記載でもよい。

複数の名を列記する場合はコンマで区切って続ける。アルファベット等の場合は最後の氏名の前に & をおく。

3・2・3 編者 編者名の後には“編”をつける。外国語の場合は“ed.”(編者が複数名のときは“eds”)をつける。

3・2・4 翻訳者 翻訳者名は括弧で囲んで原著者名に続ける。複数の翻訳者がある場合は、筆頭者1名の氏名を記載し、“……他訳”と書く。

3・2・5 雑誌 外国語の雑誌名は略称があればそれを用いる。

巻数の表記は数字のみとし、ゴシック体で記載する。号数は各巻に通しでページ数が付されている場合は記載しない。記載する必要のある場合は、号数を括弧で囲んで巻数の後に入れる。

3・2・6 単行本 表題はクォーテーションマーク（“ ”）で囲む。

改訂版、第3版、……などは表題をクォーテーションマークで閉じた後に入れる。

単行本の引用にはページ数を記載しない。ただし、複数の著者からなる単行本の一部を引用する場合など、特別にページの必要な場合は「**3・2・7 ページ数**」に従って引用部分のページ数を記載する。

国内で発行された単行本には発行所を記入し、国外で発行されたものには発行所の他に発行地も記入する。

3・2・7 ページ数 ページ数は、引用する文献の第1ページと最終ページの数を半角ダッシュでつないで記載する。

3・2・8 プレート 本文の他にプレートを引用する必要がある場合は、ページ数の後にプレート番号を書く。プレート番号は前に“pl.”をつけ、2頁以上におよぶ場合は“pls”を用いる。

3・2・9 発行年 発行年は西暦で記載する。

3・3 引用文献記載例

3・3・1 雑誌（電子ジャーナルを含む） 著者名（翻訳者名）：雑誌名，巻，頁（発行年）。

- 1) 平岡正三郎，山本大二郎：分析化学，**32**，435-441（1983）。
- 2) 山崎敬：植物研究雑誌，**65**，141-144，pl.IV（1990）。
- 3) 野々村邦夫：環境情報科学，**20**(4)，7-10（1991）。
- 4) Watanabe, R. : J. Hattori Bot. Lab., **69**, 37-52（1990）。
- 5) Krechmar, A.V.(千村裕子訳)：バーダー，**54**，4-37（1991）。

3・3・2 単行本（本全体を引用する場合） 著者，編者名（翻訳者名）：“表題”（発行年），（発行所，発行地）。

- 1) 大井次三郎：“日本植物誌”改訂増補版（1975），（至文堂）。
- 2) 坂田康一編：“北海道の湖沼”（1990），（北海道公害防止研究所）。
- 3) 日本化学会編：“新実験化学講座 13，有機構造（Ⅱ）”（1977），（丸善）。
- 4) Oostendorp, C.：“The Bryophytes of the Palaeozoic and the Mesozoic”（1987），（J.Cramer, Berlin）。
- 5) Danilevskii, A.S.（日高敏高他訳）：“昆虫の光周性”（1961），（東大出版会）。

3・3・3 単行本（一部を引用する場合） 著者名（翻訳者名）：“表題”（編者名），頁（発行年），（発行所，発行地）。

- 1) 宝月欣二：“藻類の生態”（秋山優，有賀祐勝，坂本充，横浜康継編），593-622（1986），（内田老鶴圃）。
- 2) Tsuji, T.：“The Mechanisms of Biomineralization in Animals and Plants”

- (Omori, M. & Watabe, N. eds), 57-65 (1980), (Tokai University).
- 3) Gates, D. (川口正吉訳) : “環境の危機” (Helfrich, H.W. ed.), 59-78, (1971), (産業能率短期大学出版部).

3・3・4 ウェブ・コンテンツ 作成・公開者名：“表題” URL (参照日). 参照日は年月日の順に記載し, 「閲覧」と書く. 英文の場合は **accessed** とし, 日月年の順に記載する. データベース等の場合, そのトップページの引用でもよい.

- 1) 国立環境研究所：“侵入生物データベース アメリカミンク”
<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10190.html> (2016.07.18. 閲覧).
- 2) 気象庁：“各種データ資料” <http://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>
(2014.10.10. 閲覧).
- 3) 環境庁：“汽水・淡水魚類のレッドリストの見直しについて”
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=818> (2014.06.05. 閲覧).
- 4) いわき市, 国土交通省：“東日本大震災による津波被災現況調査結果”
http://www.city.iwaki.fukushima.jp/dbps_data/_material_/localhost/hisaijyoukyou2.pdf (2015.07.07. 閲覧).
- 5) The Plant Names Project: “International Plant Names Index”
<http://www.ipni.org/> (2004.10.24. 閲覧).
- 6) Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council: “Press Release on September 14, 2011” <http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/110914.htm> (accessed 27 October 2016). (In Japanese). (英文中で日本語サイトを引用する場合の例)

4 図と表

4・1 図と表の使用

図と表は最小限にとどめる. 同じ内容のものを図と表の両方で表わすことはやめ, いずれか一方にする.

4・2 図と表の表記

図の題, 説明および表は, 本文が和文の場合は和文または英文で統一する. なお, 本文が英文の場合は, すべて英文とする.

4・3 図と表の番号

図および表の番号は 1, 2, ……とし数字の後にピリオドはつけない. また, 1 図の中に複数の図が含まれる場合の記号は 1 図ごとに A, B, ……とし, さらに細部に記号を付す必要があれば, a, b, ……, (1), (2), ……, (i), (ii), ……の順に用いる. 本文中で引用する場合は, 図 1 A, 図 1 A a, ……のように継ぎ符を用いずに表記する. 表の場合は表 1, 表 2, ……と書き, 図と同様に数字にピリオドはつけない. 図および表を英文にした場合は, Fig.1, Fig.2, ……, Table 1, Table 2, ……とする.

4・4 図

4・4・1 図の原稿 図の原稿は本文ファイルとは別に1図1ファイルで作成する。

4・4・2 図の作成 図は、著者の原稿を適切なサイズにして使用するの、明快な画像を作成すること。

4・4・3 図の題と説明 図の題と説明は、図の原稿には記入しないで、別に説明原稿を作成する。

4・4・4 写真 写真は図として扱うので、図の作成の指示に従って番号、題などを付ける。

4・5 表の原稿

表の原稿は本文ファイルとは別に1表1ファイルで作成する。

5 その他

5・1 原稿の返却

投稿原稿はデジタル・データ、印刷原稿ともに返却しない。ただし、特別な理由で返却を希望する場合は、投稿カードにその旨を記入すること。

5・2 原稿の送付先および連絡先

原稿の送付、その他「自然環境科学研究」誌に関する問い合わせは、
〒252-0102 神奈川県相模原市緑区原宿5丁目15番6号

公益財団法人平岡環境科学研究所 編集委員会

<http://hiraokaken.or.jp/> 宛に行うこと。